



子どもたちにとっては「晴遊雨読」

大人の読書離れが指摘される一方で、子どもの読書習慣の定着をさせなさい、との声が寄せられる。

読書や学習の起点は家庭にあると考え、町では誕生とともに「君の椅子」に絵本などを添えてプレゼントしている。この椅子の周りにご両親が座り、毎日15分程度の読み聞かせを行うことは、親子の最高の遊びで、読書習慣の始まり、学習の起点だと考えている。小さな頃に保護者が子どもの未来のために読書の習慣を授けることは、最高の財産を贈ることに繋がるのではと思う。

フィンランドでは寝る前に保護者が毎日読み聞かせ、本は図書館から借りると言う。本のない家庭で子どもたちに読みなさいと言ってもなかなか定着しない。せんとびゅあⅡでは子どもたちのために貸し出す本の充実に努めている。加えて、ボランティアの方々のご支援により、子どもたちが読書に親しみ遊ぶ体験など、様々なイベントが実施されている。参加することによって保護者間の交

流や子育てなどの語りの輪が広まり、読書に対する輪も大きくなって行くものと期待している。

また、広い遊び場が必要だという声があるが、本町には各地域に広い遊び場が用意されている。親子で遊びを工夫することも大切である。夏はボールを蹴って走りまわり、冬は寒さを忘れて雪の中を走る。スキーやスノーボードなどをするのが足腰の強い子どもの成長につながる。せんとびゅあ芝生広場には要望があった水遊びができる場、ゆめ公園には世代間交流につながるアスレチックの整備も検討している。

雨が降った時に子どもたちが室内で遊ぶ場がないとの声もある。晴れた日は外で思い切り遊び、雨の日こそ室内で読書をする。「晴耕雨読」ならずとも「晴遊雨読」が、心身ともに健やかな子どもを育てるのではないか。間もなく雪のシーズン向かえる。外で元気に遊ぶ子どもたちの姿が待ち遠しい。

農の生け花とともに (一般書)



野菜や果物などを生かして飾る農の生け花は、伝統的な生け花のような法式はなく、規格外の農作物や昔ながらの農具、使い古しの民具などをいつどこでも自由自在に生かし、農的暮らしに潤いをもたらしてくれます。四季折々の農の生け花の作品60点余りを主に紹介し、農の生け花とのかかわり、農の生け花の歩みと取り組み方などについても解説。

若おかみは小学生! (DVD)



小学6年生のおっことは交通事故で両親を亡くし、おばあちゃんが経営する花の湯温泉の旅館<春の屋>で若おかみの修行中。ドジでおっちょこちょいなおっことは、同級生でライバル旅館の跡取りにからかわれながらも、旅館に昔から住み付いているユーレイや小鬼たちに励まされながら、持ち前の明るさと頑張りで、お客様をもてなしていくのです。(94分)

貸し出し図書ビデオ紹介

せんとびゅあⅡ ほんの森

【貸し出し】
 図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)
 DVDは一人2本まで(8日間)

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

うみどりの島 (絵本)



北海道の日本海北部にある、周囲12キロ、人口300人の小さな島・天売島。毎年、100万羽もの海鳥が子育てのためにやってくるので、海鳥の楽園ともよばれています。40年近く天売島で暮らす著者が見つめてきた、地球上をダイナミックに移動している生き物たちの大自然のいとなみを、1年の移り変わりを通して感じることができます。